



日本大学学生が海上自衛隊基地を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、10月4日（火）、日本大学の学生30名の海上自衛隊横須賀基地見学を支援した。

当日は、横須賀基地内に停泊している海上自衛隊第2潜水隊群の潜水艦「こくりゅう」の外観を見学した後、談話室において海上自衛隊及び潜水艦について詳しい説明を受けると、初めて見聞きする潜水艦の姿や勤務に、学生たちは興味深く関心を持った様子であった。

その後、バスで移動しながら米軍基地内の軍人家族居住地区を見学し、近隣にある記念艦「三笠」の見学もあわせて行った。

午後は横須賀基地において護衛艦「はたかぜ」に乗艦し、隊員から丁寧な説明を受けながら艦橋、機関室、甲板等艦艇内の施設や装備を見学した。参加者の中には自衛隊を志望している学生もおり、自身の将来の姿に重ね合わせて自衛隊や艦艇の細部について熱心に質問をする姿も見られた。

静岡地本は、今後も自衛隊の現場を直接見学する機会を活用し、多くの学生にその魅力を伝えていくとともに、情熱と高い志を持って自衛隊を目指す優秀な志望者獲得に向け邁進していく。



陸自幹部自衛官の登竜門を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、10月4日（火）と5日（水）の2日間、陸上自衛隊幹部候補生学校（福岡県久留米市）研修に、県内からの採用予定者3名を引率して参加した。

この研修は、来年3月に陸上自衛隊の幹部候補生として採用予定の者に対して、将来目指す幹部自衛官への具体的なイメージをもってもらうことと同期生となる参加者同士の親睦を深めてもらう事を目的としている。

1日目は、一般大学を卒業し幹部候補生学校に入校した現役学生との懇談を行い、入校後の生活等についての具体的な質疑応答を行うとともに、参加者同士の懇親会が開かれ来年4月に同期となる81名が絆を深めた。

2日目は、入校学生の生活環境、英語教育や戦術教育実習等実際の訓練の様子を見学した他、学校長による講話が行われた。学校長・大庭秀昭陸将補は「幹部は部隊団結の核心である。部下の心を惹きつける能力とその魅力を身につけることができる我が校への入校を待っている」と参加者へ激励の言葉を送った。

参加者からは「幹部候補生がどのような理念のもと教育を受けているのかを学校の雰囲気から肌で感じることができた」「来年入校するための心の準備ができた」といった率直な意見が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような全国の各自衛隊を研修する機会を活用して入隊予定者の疑問や不安感を解消し、安定した気持ちで入隊・入校日を迎えられるよう全面的な支援に努めていく。



「海自横須賀基地見学ツアー」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、10月16日（日）、募集対象者等を対象に行われた「海上自衛隊横須賀基地見学ツアー」に、入隊予定者及びび学生等14名を引率して参加した。

当日は、海上自衛隊の組織や業務内容について概要説明を受けた後、ゴムボートで港内を一周する体験航海を行った。日本最大級の護衛艦「いずも」や南極観測船「しらせ」のほか、潜水艦や補給艦等、普段目にする事が出来ない多くの艦艇を間近で見ることができ、参加者は興奮した様子であった。

また、護衛艦「やまぎり」と「ゆうぎり」の艦艇見学も実施され、「やまぎり」に勤務する近藤薫3等海曹（焼津水産高校出身）から、訪れた母校の後輩に対して装備品や船での勤務等についての丁寧な説明も行われた。見学した在校生たちは、母校の先輩が実際に働いている姿を目の当たりにし、海上自衛隊や艦艇での勤務に強い興味を抱いている様子であった。

静岡地本は、今後もこのような働く現場を直接見学出来る機会を活用し、学生の自衛隊に対する理解促進や入隊予定者の不安解消に努めていく。

